



No. 49

9/28. 2008

Moriya International Friendship Association

MIFA NEWS

守谷市国際交流協会広報委員会発行

事務局 住所：守谷市大柏950-1
電話：0297-45-1111

URL：http://www.fureai.or.jp/~mifa

JICA 研修員ホームステイ



7月26日、27日に、JICA研修員を招いてホームステイが行われました。26日は午前中にアサヒビール工場を見学。土曜日でしたが缶詰工場が稼動していて、めまぐるしい速さで缶ビールが出来上がるのを見ることができました。その後、場所をもりや学びの里に移しバーベキューを行いました。今回のゲスト6人のうちイスラム教徒が3人、ヒンズー教徒が1人いて、肉の種類ごとに炉を分け、調味料にも配慮するなど大変な面もありましたが、彼らも安心して食べることができ、喜ばれました。

食事の後は研修員に簡単な自国語でのあいさつを教えてもらったり、民芸品、写真、歌を披露してもらう

など交流を図ることができました。中には自国を紹介するDVDを持参した研修員もいましたが、パソコンの小さな画面でしか見ることができなかったのが残念です。もし、ログハウスで行っていたら、立派な「世界の国紹介」になったと思います。

12月には筑波大学留学生のホームステイを予定しています。あなたも、ホストとして参加してみませんか。

上半期の主な事業

- 4.17~21 「21世紀東アジア青少年大交流計画」
中国高校生守谷市来市
- 4.19 JICA筑波国際センター一般公開出展
- 4.27 MIFA理事会
- 5. 7 日本語講師のための講習会
- 5.14 第40回外国人のための日本語講座開講
- 5.25 Welcome to MIFA
- 5.25 MIFA総会
- 6. 3 古河市国際交流協会設立総会出席
- 6. 7 青少年海外派遣事業事前研修の協力

- 6.21 MIFAサロン「中華料理教室」
- 7.16 外国人のための日本語講座修了式
- 7.26~27 JICA研修員ホームステイ
- 8.18~27 マインブルク市高校生来市
- 8.23・24 北守谷地区夏祭り出店
- 8.26 マインブルク市高校生フェアウェルパーティー
- 8.30 きらめき守谷夢彩都フェスタ2008出展
- 9.17 日本語講師のためのレベルアップ研修会
- 9.24 第41回外国人のための日本語講座開講
- 9.28 MIFA設立20周年記念式典および記念事業

MIFA 総会 2008



5月25日午後2時から、ログハウスで、守谷市国際交流協会2008年度総会が行われました。

会長あいさつ、来賓として出席された

西野賢一副市長のあいさつの後議事に入り、2007年度活動報告、決算、監査報告を承認。その後市役所の人事異動にともなう役員の一部変更などが承認され、引き続き2008年度事業計画、予算が提案され承認されました。また、姉妹都市市民の来市、青少年海外派遣について報告が行われました。

総会終了後、「設立20周年とラオスとの交流」と題して、小川会長及び飯村守谷高校前校長の講演、その後懇親会が行われました。

〔質疑〕

質：語学講座は募集しているか。語学講座の収支。

答：英会話初級講座の募集をしている。収支は、受講料と講師謝礼を同額にしている。

質：総会成立の定足数の定めがない。総会の参加者が少ないのが気になるが増やす努力は。

答：定足数を定めると委任状の回収に時間も費用もかかる。かつては総会後にバーベキューをしていたが、今は質素にやっている。

質：会員数と会費納入額の不一致の理由。

答：会費の滞納や複数年の納入がある。

2008年度予算（収入）

科目	予算額(円)	備考
会費及び補助金	2,670,000	年会費/守谷市国際交流基金から
繰入金	2,700,000	周年記念事業基金からの繰入
事業収入	1,173,000	事業への参加費など
雑入	7,392	預金利子など
繰越金	309,608	前年度繰越金
合計	6,860,000	

2008年度予算（支出）

科目	予算額(円)	備考
事業費	2,608,000	各専門委員会事業
20周年事業	3,000,000	記念式典・記念事業・記念誌
旅費	100,000	交通費
役員費	74,000	保険料
事務費	769,250	事務用品・郵送料
慶弔費	10,000	
備品購入費	20,000	
繰出金	160,000	周年・記念事業準備基金など
予備費	118,750	
合計	6,860,000	

Welcome to MIFA

5月25日、総会が始まる前にWelcome to MIFAが行われました。

新入会員にMIFAの組織や活動状況を説明するために行っているもので、今回は8人の参加がありました。昨年末Year End Partyの日に行われたのに引き続いて行われたもので、新しく協会に入ってもMIFAがどんな活動をしていて、自分に何ができるのかわかりづらいため活動に二の足を踏む人が多いことから、各専門委員長から活動内容の説明を受けるものです。この日も、早速専門委員会に登録した人もいて、定期的に行いたい事業の一つです。

マインブルク市高校生が来市



8月18日から27日まで、マインブルク市高校生8人（ほかに引率者2人）が来日しました。予定より早めに成田空港に着いたため、成田山新勝寺を見学することができました。19日には青年交流委員会ともしや学びの里でバスケットボールを楽しみ、20日からは日光、富士山、大洗アクアワールドを見学するなど、日本の休日を満喫しました。大洗では普段は入れない水族館の裏側まで見せてもらい感激していました。

26日はログハウスでフェアウェルパーティーが行なわれ、歌の披露、ドイツのピール祭りのイベントとして行なわれる、角材に釘を打ち込む回数を競うゲーム（少ない方が勝ち）やジョッキーを片手で持ち、手を伸ばして持っている時間を競うゲームを楽しみました。

最後は記念写真をお互いに撮りあい、最後までホストファミリーとの別れを惜しんでいました。

中国無錫市第一・常州市高校生来市



守谷高等学校で化学の授業に参加した無錫市第一高校の孫后沛君。右はホストの青年交流委員長・泉山君

4月17日から21日まで、中国の高校生20人が守谷市を訪れました（日本滞在は4月15日～23日）。

安倍前首相が2007年1月の東アジア首脳会議で表明した東アジア地域支援政策の一環で、同会参加国等から、今後5年間、毎年6,000人程度の高校生、大学生を中心とした青少年をわが国に招聘し、域内での青少年交流を通じた相互理解の促進を図ることにより、東アジアで良好な対日感情の形成を促進することを目的とした国家プロジェクトです。

今回は、短期招聘事業中国高校生第1期として訪日した200人のうちの20人で、一行は守谷高校での授業や部活動への参加、ホームステイ、交流プログラム等を通じて、日本の高校生や市民との交流を深めました。守谷高校では対面式を終えると5人ずつに分かれて2、3年生の教室で授業を体験。高校側では中国人一人に生徒を一人付け、何でも相談できる態勢を整えましたが、英語で、中には日中翻訳の電子辞書を片手にコミュニケーションをはかる生徒もいて、多感な少年期にこういった体験をすることの重要性を感じました。昼食時は中国の風習にはない「お弁当」も体験。中国では2時間ある昼食時間を45分で済ませるなど、習慣の違いも体験しました。

また、アサヒビール工場、常総環境センター見学は、中国の高校生にとって環境面から想像以上に感動的だったようです。こういった先進施設を見ることにより、将来の自国のあり方を考えてもらえたなら、良い経験になったと思います。

今年から4年間、日中間だけでも約4,000人規模の青少年交流が実施される予定で、これらの交流により相互理解が深まり、アジア諸国との強固な基盤が築かれ

ることが期待されます。

今回は、平成21年1月27日から2月5日までラオスの高校生が来日します。守谷高校からも「この日程なら受け入れ可能だし、ぜひ受けてみたい」と協力が得られそうで、詳細はこれからの検討になりますが、引き受ける方向で事務を進めています。

あなたもホームステイを引き受けてみませんか。



フェアウェルパーティーで中国舞踊（演奏を含む）を披露する無錫市第一高校の生徒

青年研修事業（ ラオス保健医療 研修生受け入れ）

青年研修事業は、わが国が開発途上国を対象に実施する技術協力の一環として、国際協力機構（JICA）が未来の国造りを担う青年層を対象に、専門分野に関して研修することによって、人材の育成に寄与することを目的とする事業です。

この事業は、地域で国際交流を目的とした団体が受け入れることが特徴で、受け入れ地域では青年との交流を行ったり、ホームステイを実施したりと市民や自治体が地域の特色を生かして国際協力に参加できる機会でもあります。

MIFAでは、ラオスの医療関係者15人を受け入れ、約2週間、守谷市近辺において研修することになりました。研修期間は11月17日（月）から12月4日（木）で、このうちMIFAは11月20日（木）から11月28日（金）までを受け持ち、研修生の応接をします。実行委員を募集しましたのでご存知の方も多いと思いますが、MIFAはJICAなどからの要請に応え、こうした事業にも積極的に取り組もうと考えています。ご協力をお願いします。

JICA筑波一般公開



「国際協力を楽しもう」をテーマに、4月18日、19日にJICA筑波一般公開が行われ、MIFAも活動紹介のために出展しました。

会場にはJICAで学んでいる各国の研修員が自国を紹介するコーナーや県内で活動しているNGO、国際交流団体のブースが並び、民族衣装の試着コーナーやさまざまなお茶の試飲コーナーもあり、訪れた人たちが珍しげにブースを覗いたり研修員との会話を楽しんでいました。グッズの販売をするコーナーも多く、年に一度の公開日を楽しみしている人たちが一日中賑わっていました。

青年交流委員会レポート 北守谷地区夏祭りに出店



8月23日、24日、立沢公園で行われた北守谷地区夏祭りに出店しました。

雨が降り、大変でしたが、今年、青少年海外派遣事業でグリー

ーリー市へ行ってきた中・高生たちの協力のもと、青年交流委員会の企画・運営は大成功を収めることができました。青年委員、派遣者も仲良くなり、とても楽しく、今後に繋がる結果を残すことができました。

ペットボトルのふた 回収に協力を!

ペットボトルのキャップが途上国の子どもたちへのワクチンに変わることをご存知ですか。

青年交流委員会では、市役所の協力を得て公共施設にキャップ回収ボックスをおかせていただいています。集まったキャップをリサイクルメーカーに送り売却し、その売却益をワクチン寄贈団体に送ります。キャップ800個が子ども1人のポリオワクチン接種の費用に充てられます。回収ボックスは、図書館、市民活動支援センター、市役所くらしの支援課、文化会館、ログハウスに置いてあります。家庭で出たキャップはごみとして捨てずに集めておいて、上記施設へお持ちください。ご協力をお願いします。

日本語講師養成講座 & 外国人のための日本語講座



5月7日、日本語講師のための講習会（レベルアップ講座）が開講。23人の受講生が翌週に控えた日本語講座に備え、研鑽に励みました。

5月14日から40回目となる「外国人のためのボランティア日本語講座」が開講。受講生23人に講師対しは26人で、受講生より講師の数が



上回っています。7月16日に行なわれた修了式には8回以上参加した9人（アメリカ人1人、中国人2人、オーストラリア人1人、タイ人3人、ブラジル人2人）に、飯田委員長から修了証が手渡されました。

MIFAサロンで水餃子作り

6月21日、ログハウスでMIFAサロン「中華料理教室」が行われました。中国人講師5人を含め参加者は38人で、在住外国人の方も1人参加しました。



最初に映像で餃子の作り方を紹介しながら講師に説明いただいたので、皆よく理解でき、作業に入ってからスムーズに皮が作れました。できあがった餃子は早速ゆでて食卓に上り、皆、手作りの餃子を堪能しました。

外国の料理をその国の方と一緒に作って食べて、大げさに言えば食文化を理解するというのは身近な異文化交流として人気も高く、これからも続けていきたいと考えています。